

★自民党と反動の改憲策動、軍国主義路線を断固粉碎しよう！
★「搾取の廃絶」と「労働の解放」の旗を高く掲げよう！
★100万票を獲得し、労働者の代表を国会へ！

海つばめ

発行 労働の解放をめざす労働者党
発行所 全国社研社

〒179-0074 東京都練馬区春日町1-11-12-409
TEL/FAX 03(6795)2822 郵便振替 00120-6-166992
定期購読料 (送料共) 1年分＝開封2000円 密封2500円
HP=http://wp11-j.org/ Eメール=webmaster@wp11-j.org

労働者の代表を国会へ

比例区(特定枠)は吉村さん

比例区と共に6選挙区で立つ

労働者党は昨年の9月末、第3回大会を開催、19参院選を闘う体制と陣容を確認し、比例区及び8選挙区の候補者を公認しました。しかし、その後、北海道選挙区の候補者が入院し、止む無く陣容を変更しました。新たな10名とは、比例区は、吉村ふみお(「特定枠」)、林紘義、伊藤恵子、菊池里志の4名、選挙区は、あくつ孝行、古川ひとし、佐々木一郎、泉安政、斉藤よしあき、岩瀬清次《内定順》の6名です。これからの参院選までの数ヶ月は、ラストスパートの時期です。読者の皆さん、労働者・働く皆さんに大きなご支援を訴えます。

「六無齋」の党として闘い抜く

我々の10名の候補者は、みな個性と特色のある、そして様々な出身と経歴の魅力的な人々ばかりで、それぞれの積極面や特性を生かし、発揮しつつ、全体としての労働者党の闘いを担い、浸透させ、決然として最後まで闘い抜き、労働者・働く者の支持を広く、そして大きく獲得し、我々の目的の初議席を勝ち取っていただくことを確信します。

我々は地に足の付いた選挙戦を貫徹するために、参院選選挙戦に向けての党としての路線綱領、政治・政策綱領を確認し、それを闘いのための共通の政治的、政策的な基礎として、選挙前の9ヶ月(昨年9月の大会以降の期間)の活動を推し進めることにしました(2面に全文掲載)。

「高齢者」候補としての決意

私たちは、10名の候補者を見ても分かるように、皆60才以上の者ばかり、私はその筆頭で80才。米国の大統領選に旋風を巻き起こしたサンダースよりもまだ年長です。若い現役の労働者もいますが、仕事を辞めるわけに行かず、落選すると生活していけないし、党が生活を保障できない状況では、年金生活者など高齢者が選挙戦の先頭に立たざるを得ないのである。

しかし若者に元気がなく、政治や社会の危機的な状況に無関心なまま、高齢者の

る有権者を何万、何十万人も作り出すために活動していくことも確認しました。

労働者党10名の候補者

1、比例区【特定枠】 吉村 ふみお

53年、愛媛県松前町生まれ。愛媛大工学部卒。建設会社に技術員として就職。81年、新居浜市の医療生協に就職。86年、労組結成、執行委員長。88年、91年労働者党から、市議補選に立候補。05年から現在まで愛媛自治労で指導的役割を果たす。

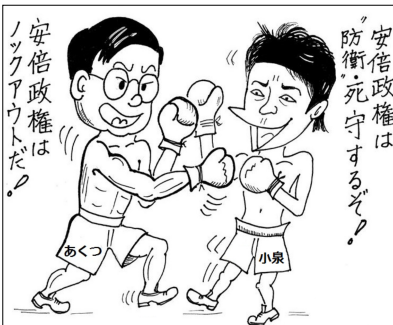
2、比例区 林 紘義

38年長野県上田市生まれ。58〜60年、自治会及び都学連役員として「勤労反対闘争」、「60年安保闘争」を闘う。2回逮捕され有罪判決を受ける。84年、労働者党結成に参加。7年、新労働者党結成に参加、現在党代表。

3、比例区 伊藤 恵子

47年東京都生まれ。高校卒業後、民間会社や郵便局で働く。70年代中頃ア

に、まさに安倍政権に反対し、それを打倒するための闘いの一環を担うために今こそ、我が労働者党とともに決起するように呼びかけます。



17衆院選神奈川11区選挙ピラより

6、長野選挙区 斉藤 よしあき

50年、長野県栄村生まれ。東京教育大文学部在学中にマルクス主義に触れる。75年〜13年、長野県立高校社会科教師。「日の丸・君が代」闘争で分会役員として先頭に立つ。16年より「県・働く者のセ・ナ」を立ち上げ、長野市内で『資本論』読書会を主催。

9、広島選挙区 泉 安政

53年、大分県別府市生まれ。米子工卒。同年、NHK広島放送局に技術職として入局。後、山口放送局へ。労組分会の役員。80年、退職後、マル労同の選挙闘争に協力、組織建設をめざし、広島に戻る。86年以降、零細企業の型枠大工。現在、党広島支部長。

7、愛知選挙区 古川 ひとし

54年、北海道上川町生まれ。69年東大闘争に衝撃を受け、高校入学後デモ等に参加。全国社研に出会った後、革命運動を決意。卒業後、旭川、札幌で活動し、78年名古屋に移住。87年、市議選立候補。各地で20近い会社を転職。現在、党愛知支部長。

10、東京選挙区 岩瀬 清次

53年東京生まれ。都立上野高で学園紛争に参加。高卒後、ビルメンテナンスの職を経て、ペトリカメラに転職、争議を経験。再就職し東京東部の地区活動に参加。昨年の神奈川11区

8、大阪選挙区 佐々木 一郎

51年、大阪府大東市に生まれる。73年、北大農学部卒。大阪の建設会社で

野党共闘の現実 有権者裏切る結果に帰着

以下の小論は16年の参院選のあり、共産党が中心になつて行われた野党共闘を、事実に基づいて批判したものです。我々の危機は17年の衆院選における前原一派の裏切りと、それによる野党共闘の解体によって、その完全な正しさが証明されました。野党共闘の破綻への道は16参院選の志位の路線から始まったのです。

「野党共闘」を美化するきれいな言葉が振りまかれていますが、その現実を少しでも検討してみれば、実際に、それがどんなものとして存在しているかがたちまち明らかになる。

一人区は「共闘」ができた成功だと言われているが、実際には、民進党候補を応援できない共産党の地方組織もあれば、反対に、共産党が唯一候補者になった香川の民進党勢力は、共産党候補の推薦をしないと決定し、共産党候補を担いでいくらかでも真剣に闘おうなどとは全く考えていない。

具体的には宮城の「共闘」の例を取り上げてみる。宮城の民進党候補桜井氏は積極的に共産党に媚び、共産党の支持を確かにして浮かっているが、この男は民進党の中でも「札付き」のワルで、最低の政治家、商業新聞からさえ、「かつては自民党候補の公募に応募したことがある桜井氏。参院当選後も、自民の参院議員と安全保障や経済をテーマにした40人規模の政策勉強会を開くなど、本来は自民から出てもおかしくない政治家だ」(朝日新聞5月15日)と書かれるような政治家である。県の保守的な医師連盟までもが、その

代候補2人のほか7名はすべて60代で、平均年齢は60代半ば、まさに純血
【二面に続く】

共産党は安倍政権に消費増税を止めよと要求し、いま増税などしたら2014年の時と同様に深刻な消費増税不況に陥ると脅し、そんなお粗末な理屈ややり方で安倍政権と「闘って」いるつものようだ。

主張

安倍政権に限りなく追隨し「消費(税)不況」という志位の妄言

しかし失礼ながら、そんな闘いは安倍政権を暴露し、総需要は増えるのである、というのは消費者の手にある。安倍政権は緊密に協調し、その延命に手を貸しているだけではないのか。

消費増税による需要減少などというのは、「経済学的にみて」、つまり科学的に——常識的に、でも同じことだが——議論すれば、全くのナンセンスである。消費増税による数兆円は消費増税で、消費増税を

労働者党は19参院選に向けて、基本的に、以下のような政治路線や政策を柱に闘う

1、労働者の政党としての根底的で原則的な立場や政策

一つは、長時間労働、ブラック労働などに象徴される、搾取労働の即時廃止の要求です。二つは、二十万人にも急増してきた非正規労働者や、低賃金や身分的不公平などに苦しむ女性労働者などの間に広くはびこっている、差別労働の即時一掃の要求です。

こうした要求は、何か非現実的で途方もないものと思われるかも知れませんが、事実上、安倍首相自身が、16年の秋、「働き方改革」を謳い、同一労働同一賃金の実現を実行すると宣言したときに声を大にして主張し、公約したことにすぎません。当時、安倍首相は、

ただ「需要」なるものを——いくらか卑俗に「購買力」といってもいいのだが——消費者から政府に移すだけであって、当然の結果として、社会的な需要の総量は変わらないのである。否、むしろ厳密にいうなら、総需要は増えるのである、というのが消費者の手にある。安倍政権は緊密に協調し、その延命に手を貸しているだけではないのか。

どんな需要縮小があるというのか、なぜ反対するのか。しかも安倍政権は消費増税不況を騒ぎ立てて、1兆円もの補正予算を組んで需要拡大のために、さらに奮闘するのである。消費増税不況などという

差別労働の廃止は「待ったなしの重要課題」と言い、また、「この日本から非正規労働という言葉を一掃する」と大言壮語しました。長時間の殺人的労働の一掃は、「躊躇ちゅうちよなしに行う」と断言し、働

2、バラマキ「成長」やバラマキ「福祉」は幻想であり、空手形です。バブルなき正常な経済と借金なき健全な財政を！

安倍政権は「異次元の金融緩和などで大量のマネを日銀を通してバラマキ、低金利・ゼロ金利や、物価上昇や円安誘導に励み、また赤字財政を膨張させて、空虚で見せ掛けだけの「経

のは安倍政権と志位共産党の協賛の空騒ぎ、デマゴギー——そうしたら需要縮小といえるかもしれないが——、その代わりに教育無償化という「全世代型」のバラマキに転用するというのである。とするなら、共産党はこうした消費増税に、一体

最後についておくべきことがある。それはインボイス導入と関連し、彼らが、中小業者の立場と利益を擁護して票を増やしたいというなら、誰も止めようとしなが、しかし、もう少し道理に合った、ま

3、モリ・カケ事件は何も終わっていない日本を最悪、最低の国に墮落させる国家ぐるみの大犯罪

安倍政権のもと、日本の政治や社会道徳は最悪のものになってしまいました。安倍はモリ・カケ事件で一銭も力ネを受けとっていない、「政治の世界で問題

4、真実の歴史を否定、5、安倍の「党利党略」

「修正」して再び戦争と帝国主義国家への危険な道へ 朝鮮の植民地化や中国への侵略、米国との帝国主義戦争などは歴史的真実で消せない

安倍は9条のこれまでの「平和条項」（1、2項）の文章はそのまま残して、そのあとに、自衛隊は合憲であるという文章を付け加えるという憲法改定を国民に問うといっています。

しかしそんな場当たりの改憲は、9条の現在の2項を削除し、明確に「自衛隊を軍隊として位置づける」という石破案の方が、安倍の立場からしてもよほど一貫しています。安倍案が国民投票で負けても、自衛隊の合憲性は変わらないとい

6、反安倍勢力は「別個に進んで一掃し撃て」野党共闘路線は、昨年の総選挙で安倍大勝を許した戦犯であったし、今後も同じです

志位は16参院選や17

義や悪党の反動に反対する勢力が、それだけ増えた」と評価できないのか。共産党は単に我々に票を食われるのを恐れているのか。我々はまさに1億の有権者、労働者・働く者の仲間

「二面から続く」

の「労働者党」であると共々に、時代を反映し、「高齢者」党でもあります。我々の党は江戸時代の儒学者で、「海国兵談」の著者、林子平さんからの「六無齋」の党、超ミニ政党で、「組織無し、力ネ無し、地盤無し、知名度なし、おま

「分裂行動」という非難許さず

我々に対しては、共産党や偏狭な市民派、野党共闘論者からは、すでに「分裂行動」だ、「敵」を利用する行為だといった中傷が始まっています。今後、ますます盛んになるだろう、言われ

今こそ安倍政権の打倒目ざし、参院選の勝利目ざしを推し進め、我が労働者党の仲間が何人も国会に出て行って、何が問題なのか、何が「分裂行動」なのか。なぜ安倍政権や、国家主

分裂し、半分が保守の陣営に走った途端に破綻するしかありませんでした。各政党が、基本的にそれぞれ路線で、それぞれ独自に、それぞれが全力を出して闘い、結果として安倍政権を負かせばいいのです。「別個に進んで一緒に撃

半自民党でさえある国民民主党や立憲民主党、つまり他人のふんどしを借り、そんな力によって勝とうという戦術は虫のよすぎる、愚劣なやり方で、民進党が